



オリーブ <モクセイ科 オリーブ属>

常緑の小高木～高木。地中海沿岸で古くから栽培されている。日本に渡来したのは江戸時代の末期。関東地方以西の暖地で庭木や公園樹、鉢植えにされ、現在は小豆島が国内で最大の産地。葉は、硬くて細長く、対生に付き、葉身は3～6 ㍍の全縁。葉の表が灰緑色、裏は銀白色で木全体が青白く見えるのが特徴。花は5～7月。芳香のある黄白色の小花を多数付ける。実は、長さ1.2～4 ㍍で品種により大きさや形は様々。ピクルスや果肉からオリーブ油をとる。材は硬く緻密で油分が多く耐久性に富み、装飾品や調理用などの道具類に用いる。・・・▼鉢植えの我が家のオリーブ。明るい緑の葉としなやかな枝が春の陽を受け、やさしく揺れる。▼春の陽は木々を目覚めさせ、山々はもうすぐ色とりどりの緑で彩られる。その合間にヤマザクラやタムシバ、コバノミツバツツジが点在し里山は春の息吹に包まれる。▼オリーブは平和のシンボルツリー。花言葉は『平和、安らぎ、知恵、勝利』。巡る季節に願いを込めて。

～佐伯区湯来町 2023・3～